

霜害を受けたカキの夏枝管理

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

2014年は、4月の凍霜害により着果が皆無の園があり、6月に新梢の多発が見られた。通常は7月末から8月に夏期せん定（枝抜き）を行うが、6月に夏期せん定を行った場合の次年度の結果母枝等への影響を調査した。

(2) 情報・成果の要約

6月に夏期せん定を行うことで二次伸長が増加するが、摘心をあわせて行うことで結果母枝が短く押さえられた。

2 試験結果の概要

(1) 処理方法

4月の凍霜害により着果が減少した棚栽培の‘西条’、‘富有’を共試し主枝単位に処理区を設定した。

表1 処理区の新梢管理方法

処理区	徒長枝せん除	ねん枝・摘心
6月夏季せん定・6月摘芯区	6月19日	6月19日
6月夏季せん定・無摘芯区	6月19日	無し
無夏季せん定・6月摘芯区	無し	6月19日
7月夏季せん定・無摘芯区	7月31日	無し
無処理区	無し	無し

夏期せん定は、結果母枝として使えそうにない新梢をせん除。摘心は強い新梢に行い、弱い新梢には行っていない。富有ではねん枝を行った。

(2) 調査方法

1月19、20日に、主枝、亜主枝から直接発生している新梢について調査した。摘心区については、摘心した枝の長さを測定した。花芽については、目視により達観調査を行った。

(3) 結果の概要

‘西条’では、‘富有’と比べ主枝や亜主枝の基部から新梢の伸長量が多く、二次伸長する枝も多かった。

‘西条’の夏期せん定については、6月より7月実施の方が二次伸びがやや少なく、‘富有’の7月実施では二次伸びは見られなかった。

6月の摘心により、二次伸長する場合も見られるが結果母枝が短く押さえられた。

無処理を含めいずれの区も花芽の着生は良かった。

以上の結果、6月に夏期せん定を行う場合、摘心を行うことで、結果母枝が短く押さえられることから、摘心を併せて行う方が良いと考えられた。

表2 新梢処理の違いが新梢に与える影響(西条)

処理区	調査新梢数	摘心してない枝					摘心した枝					2次伸長率	花芽率	備考	
		新梢数	新梢の伸長量(cm)	うち2次伸長本数	2次伸長率	2次伸長量(cm)	摘心新梢数	摘心した枝長(cm)	うち2次伸長本数	2次伸長率	2次伸長量(cm)				
6月夏季せん定・6月摘心区	①樹	75	20	35.5	3	15.0%	37.3	55	39.2	13	23.6%	18.8	21.3%	78.7%	
	②樹	56	6	49.8	0	0.0%	0.0	50	36.9	28	56.0%	37.6	50.0%	71.4%	
6月夏季せん定・無摘心区	①樹	82	82	44.8	24	29.3%	19.9	-	-	-	-	-	29.3%	90.2%	
	②樹	71	71	47.6	44	62.0%	27.5	-	-	-	-	-	62.0%	70.4%	
無夏季せん定・6月摘心区	①樹	81	7	46.9	3	42.9%	24.7	74	42.2	31	41.9%	24.8	42.0%	74.1%	
	②樹	58	17	28.6	2	11.8%	14.5	41	39.7	3	7.3%	18.3	8.6%	94.8%	樹勢弱い
7月夏季せん定・無摘心区	①樹	81	81	38.2	5	6.2%	10.0	-	-	-	-	-	6.2%	80.2%	樹勢弱い
	②樹	117	117	48.5	28	23.9%	24.4	-	-	-	-	-	23.9%	79.5%	
無処理区	①樹	92	92	51.2	43	46.7%	19.0	-	-	-	-	-	46.7%	87.0%	
	②樹	181	181	44.4	25	13.8%	18.1	-	-	-	-	-	13.8%	74.0%	

表3 新梢処理の違いが新梢に与える影響(富有)

処理区	調査新梢数	摘心してない枝					摘心した枝					2次伸長率	花芽率	備考	
		調査新梢数	新梢の伸長量(cm)	2次伸長本数	2次伸長率	2次伸長量(cm)	摘心新梢数	摘心した枝長(cm)	2次伸長本数	2次伸長率	2次伸長量(cm)				
6月夏季せん定・6月摘心区	63	2	80.5	0	0.0%	0.0	61	45.9	9	14.8%	26.6	14.3%	98.4%		
6月夏季せん定・無摘心区	①樹	61	61	70.3	10	16.4%	30.4	-	-	-	-	-	16.4%	80.3%	
	②樹	29	29	72.6	3	10.3%	34.0	-	-	-	-	-	10.3%	100.0%	
無夏季せん定・6月摘心区	56	6	15.0	0	0.0%	0.0	50	47.5	1	2.0%	48.0	1.8%	96.4%		
7月夏季せん定・無摘心区	①樹	40	40	51.4	0	0.0%	0.0	-	-	-	-	-	0.0%	80.0%	
	②樹	18	18	66.4	0	0.0%	0.0	-	-	-	-	-	0.0%	94.4%	樹勢弱い
無処理	29	29	59.9	0	0.0%	0.0	-	-	-	-	-	0.0%	93.1%	樹勢弱い	

3 利用上の注意点

夏期せん定、摘心を行わない場合も花芽の着生に問題はなかったが、次年度の結果母枝が長くなり利用しにくいことと、徒長枝が多発すると、薬剤がかかりにくくなり、樹幹害虫等の被害が懸念される。

4 試験担当者

(河原試験地 試験地長 小谷和朗*)
 * 現 中部総合事務所農林局
 倉吉農業改良普及所 普及主幹